

大滝ダム貯水池斜面对策検討委員会

第1回委員会 議事要旨

日 時：平成18年11月5日(日) 13:30～15:00

場 所：OMMビル(大阪マチャダイズマート) 2階「会議室1・2号室」

出席者：

委員長	田村 武	(京都大学大学院 教授)
委員	千木良 雅弘	(京都大学防災研究所 教授)
"	角 哲也	(京都大学大学院 助教授)
"	吉松 弘行	(社団法人日本地すべり学会 理事)
"	平野 勇	(独立行政法人土木研究所 地質監)
"	安田 成夫	(国土技術政策総合研究所 水資源研究室長)
"	佐々木 靖人	(独立行政法人土木研究所 上席研究員(地質))
"	藤澤 和範	(独立行政法人土木研究所 上席研究員(地すべり))

議事について：

1. 委員会の設立について

趣意書および規約ともに異議なく、委員会が設立された。

2. 委員長選出

規約に基づく委員の互選の結果、委員長に田村京都大学大学院教授が選出された。

3. 議 事

大滝地区ならびに迫地区の貯水池斜面における地すべり対策を検討するための基本条件等について検討がなされ、以下の通り確認された。

設計条件について

迫地区の間隙水圧残留率については、現在掘進中のボーリング孔における現場透水試験結果から透水係数を確認した上で設定する。

大滝地区の前面すべりに対する安定解析のための想定ブロックは、すべり面下の「河床堆積物の分布範囲」の下面をブロック下面とする。また、安定解析検討断面は、尾根状地形および地すべりブロック形状の突出部(測線1と測線3の中間付近)に設定する。

すべり面の土質強度定数については、大滝地区では経験最高水位 EL.304.8m を、迫地区では貯水前(水位のない状態)を水位条件とした $R/D=1.0$ から、逆算法により求めた値とする。

計画安全率について

地すべり対策を検討する安定解析の計画安全率を、大滝地区ならびに迫地区において1.15とする。

目標とする安全率の配分では、大滝地区ならびに迫地区においては、抑制工によってブロックの安全率を最低1.05まで確保する。

安定解析手法の確認

地すべり対策を検討する安定解析手法については、想定地すべりブロックの主測線において2次元解析を用いることとし、3次元解析により確認を行う。